

社会情報科学部における教育・研究

～実践に軸足を置いた教育の実施と今後の展開～

社会情報科学部

○学部長・教授 ふじえ てつや
藤江 哲也

キーワード

データサイエンス、PBL 演習、人工知能、機械学習、
計算理論、アルゴリズム、数理最適化、情報科学研究科



研究概要

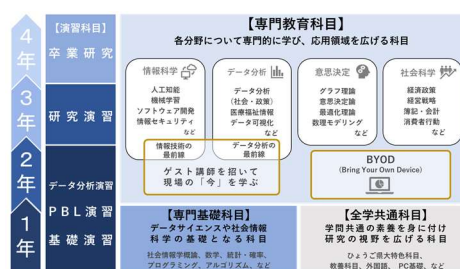
社会情報科学部は、神戸商科キャンパスに所属する、学年定員 100 名の学部です。教員 23 名全員が情報科学研究科と学部を兼務しており、大学院への接続を意識し、高度専門人材育成の礎となる教育を展開しています。

社会情報科学部は、2019 年 4 月の開設以来、次のような特徴あるデータサイエンス教育を展開しています。まず、企業から実データと直面する課題を提供いただき、データ分析に基づいた解決策を提案する課題解決型の PBL 演習 1 年次、2 年次で実施しています（左下図）。そして、データサイエンス教育に理解のある企業、自治体等から、社会の最前線で活躍する方々を講師に招き、職業ロールモデルやビジネスモデルを学ぶ機会を提供しています。本学部のカリキュラムは右下図の通りで、数学、プログラミング（Python）、確率・統計等の専門基礎科目の上に、専門教育科目として情報科学、データ分析、意思決定、社会科学分野の科目群を配置しています。また、それに併せて演習科目を設けており、4 年次には卒業研究を実施しています。

社会情報科学部には「データ分析」および「数理情報」分野の研究者が多くおり、その中には機械学習、人工知能、計算理論、アルゴリズムといった学問分野がありますが、各分野で様々な応用を見据えた研究を行っています。



PBL 演習 I の様子



カリキュラム体系

アピールポイント

2023 年 3 月に第 1 期生が卒業し、1 / 3 以上の卒業生が接続する情報科学研究科に進学しました。研究科との連携をさらに強化し、「データ分析」および「数理情報」を柱とするカリキュラムの見直しを行っています。また、新長田キャンパスプラザ（仮称）の開設に併せて、産学連携、共同研究を推進するとともに、研究成果を社会課題の解決に結びつけることを目的として、新たな事業創出へと導き社会に根付く大学発ベンチャーを本学から多数生み出すことを目標としています。学部の知名度が少しずつ上がるにつれ、本学部の実践的教育を求めて入学してくる学生が増えつつあることを実感しており、今後とも実践に軸足を置いた教育を継続し、兵庫県、ひいては、我が国の先端 IT 人材育成に貢献することを目指します。